

# 自然豊かな郷里を思う

## 俳優・地井武男さんインタビュー 前編

テレビ、映画、舞台などで活躍中の、本市出身の俳優・地井武男さん。仕事で日本全国津々浦々の土地を訪ねることが多く、その数はすでに3000か所を超えるといえます。訪問した地方の自治体と郷里の姿を重ね合わせながら、何か活性化の起爆剤として力になれないかと常に考える地井さん。6月初旬、帰省した地井さんに、郷里への思いや、将来を目指す若者へのメッセージを語っていただきました。今月号と来月号の2回にわたって紹介します。※地井さんは、平日の9時55分から放送の「ちい散歩」に出演中。散歩の楽しみ方、おすすめのコースを紹介しながら、すてきな散歩道を散策中です。



### 地井武男さんプロフィール

1942年（昭和17年）5月5日、八日市場イ（西本町）生まれ。1963年に俳優座養成所に入り、66年に卒業。2年後の68年、岡本喜八監督の東宝時代劇映画「斬る」で映画デビュー。70年には映画「沖縄」で主役に抜擢され、以後も幅広い役柄で、東映・東宝・日活などの数多くの映画で活躍。テレビドラマにも70年の初出演以降、連続ドラマ・単発ドラマとも数多く出演。持ち役も多く、近年は、バラエティー番組・CMなどでも活躍中。

### ◎少年時代の思い出

（広：広報）地井さんは、西本町で生まれ、県立匝瑳高校を卒業するまで少年時代を八日市場で過ごし、その後、俳優の道を目指して上京されたんですね。

（地：地井）東京に出て劇団俳優座の養成所という学校、今でいう小さな塾ですが、そこで3年間、俳優の勉強をしました。

（広）八日市場での少年時代の思い出、どういうことをやって遊んだとか、どんな街だったかなどを教えてください。

（地）今日も僕は匝瑳高校テニス部の練習を見に行ってきたんだけど、僕の父が八日市場にテニスを普及させる活動もしていましたから、テニス一色でした。物心ついたときに家にテニスラケットとボールが転がっていて、押し入れを開けるとテニスのボールがゴロゴロ出てくるような家で、我が家の一部にテニスコートもあったし、僕の7つ上の兄も、ほかの姉たちもテニスをしていたので、テニスをやらざるを得ない家庭環境だったんですよ。ですから高校時代まで一番の思い出は、一生懸命テニスをしたことですね。

### ◎野栄町の思い出

（広）野栄町についてはどうで

しょうか。

（地）今の子供たちはプールがあつて、学校のプールで夏を過ごすのが当たり前なんだろうけど、僕たちの子供のころはそのプールすら学校になくてね。だから夏になると野手の海へ泳ぎに行くっていうのは、夏の一つの決まりごとみたいなもんだっただんです。野手の浜にはずいぶんお世話になりましたよ。そのころは、それは子供心にとってことはあるけれど、道路から海の波打ち際まで出るのに砂が熱くて、何回も立ち止まったりしないといけないくらい遠かった。やっぱり、砂浜の長さもずっと長かったんですね。

でも、海は危ないから行くときは必ず誰か大人と行きました。ひざより上へ入っちゃだめだつてことずいぶん言われて、大人たちは九十九里浜の海に対する警戒感みたいなものがありました。現実に中学生くらいの時、東京から来た大学の水泳部の選手たちが深いところにはまっておぼれて、プールで泳いでいる東京の水泳部の選手にはこの外海は危ないんだよね、帰って戻って来られなくなつておぼれて、人工呼吸をしている姿を見た記憶があります。

当時の地引網の光景は僕の目に一番焼きついている。人間が今みたく余裕がなくて、食べる

こと、生きることには必死だった時代の地引網の人たちの勢い、とった魚をどうするかということを見ていた。今でも光景が残っている。だから、ある写真家の写真集にある九十九里浜の当時の姿、今でも見るとときどきしますね。そういう中で鯛(いわし)でも鰻(あじ)でもとった魚をすぐ焼いて食べたり、買って自分で運んだりしながら焼いて食べたりしたことってというのは鮮明に覚えているよね。九十九里浜から受けた影響は大きいと思うし、九十九里浜の波音を聞くことが一つの勇気になっていることは事実ですね。

## ◎匝瑳市について

(広) 匝瑳市はどんな街になれ  
ばよいとお思いですか。

(地) 一度ここに住んだ人間が東京に行くと、そこから郷里を見る目っていうのは勝手な意見だと思いますし、非常に地域に根ざした意見ではないだろうとは思っています。でも私は勝手な意見を自分の生まれ故郷に持っているのも一種の役目だと思っ  
ているんです。地元で好かれるためにだけじゃなくて、苦言やこうあってほしいって意見を言う人がいないといけないし、東京で役者という仕事をしながら郷里を見ているというのが、自分の置かれている立場だと思

います。だからそれが必ずしも皆さんに賛成を得られるかどうか分かりませんが。

僕は、千葉県を東京を中心に距離を測ったときに、50キロ圏内、80キロ圏内、それ以外の圏内と3つに分けたらどうだろうと思っ  
ている。50キロ圏内は東京の模倣をすべきで、もっと東京化、東京にはできない東京化。東京ディズニーランドや新東京国際空港(現・成田国際空港)は、東京にはもうその場所がないけど千葉にはまだその場所があるっていう事で始まった事がこうなってきたという訳でしょ。50キロから80キロの間はまだ開発してもいい、自由な開発はいですよという圏内、それよりもっと外の千葉県は自然を残していくべきですよ。キロ数だけでは分けられないかも知れないけど、こんなに東京に近くて自然が残っている千葉県を、例えば千葉県の知事なら知事が、自

然の千葉県にしようって事になんないかなって思うのね。本当に勝手なことを言うようだけれど、高速道路をこれ以上増やさなくてもいいと思っ  
ている。賛成反対はあるでしょうけど。千葉県の銚子へ行く、匝瑳市へ行くのは、東京からある程度時間がかかっても自然の恵みを求めて行く価値があるという考え方って  
いうのをもっと強調して、そういう千葉県を作っ  
てほしいっていうふうには思っ  
ていますね。ですから匝瑳市にはそのいい例になってほしいなって。高速道路を降りて10分走ったら、こんなに豊かな自然をたくさん残している街があるんだよって  
いうあり方であってほしいとは思っ  
ていますけどね。

## ◎人との接し方

(広) 地井さん出演のロケ番組では、初対面の人に親しげに話しかける場面が多く見られ、地

井さんの人柄が画面から伝わってきますが、人との接し方などで普段から気を付けていることが  
ありますか。

(地) 私がテレビに出ているっていうのは職業で出ているので、テレビに出ているから皆さんより優れているとは思って  
いませんよ。現場にはテレビを映す人がいたり、映される人がいたり、その映される側ってだけの  
ことなんです。ところが僕がテレビに出ているってことで、街  
に出て普通にしているても、声をかけにくいのが分かるんです。

僕も、例えば初めて有名な歌手に会ったときに、どこかで緊張してこんなふうな声をかけていいのかなとかって思っ  
ています。このごろは年だから、どんな人に対してもそんな驚きはしないけど、若いときはそう  
でした。それと同じように、街の皆さんもテレビに出ているって  
いうだけで、僕を段の一つ上に置いてしまったたり、幕をかぶ  
せてしまったり、ボールをかけたしまっ  
て「地井武男」を見ます。でも僕のほうの意思として  
は、それはもう打ち払って出よう  
って  
いうふう  
に思っ  
ている。

特に旅番組で地方へ行ったときや、あるいは今度の「ちい散歩」のように街に出て行くときに、こっちからぬぐい去ってそ  
んなものないんだよって、街の

おじさんと同じなんだよって、そこ歩いている人と同じなんだよって、本当に意識を持っていないとそれは警戒されます。だから、ばかな事を言っても平気だし、初めて会ったお母さんに「きれいだね」って言っ  
ても平気  
で、それを冗談に受け止めてもらえる訳で、ともすれば、「昔談がとげになっちゃうことも、あまりそうならずにいられるのは、多分こっちがそのテレビに出ている人だからって意識をあまり持たないことだ。それは長年そういう番組をやってきた経験からかも知れないけど。

自分で言うのもおかしいけど、そう何人かいないと思っ  
ます、そういうふうなことをやる人は。同じように街を取材して歩く人はたくさんいても、例えばそこで5人のおばさんたちが食事をしているところに入っ  
ていって「ごちそうになっていい」って言える人は。それはこ  
っちが意識して僕はテレビに出  
ている人だよとか、あるいは俳優だよとか何とかだよってペー  
ルをかぶせちゃったならもう絶対だめなんです。中には「撮るなよ」と言う人もいるけど、基本的にはそういうふうな気持ちで入っ  
て行けば受けてくれるって  
いうふう  
に思っ  
ています。

《8月号に続く》

